

「特別支援教育に関わる 学生・教員を支援する Society5.0時代の学び」

現代人間学部こども教育学科

准教授

太田 容次



京都ノートルダム女子大学

KYOTO NOTRE DAME UNIVERSITY

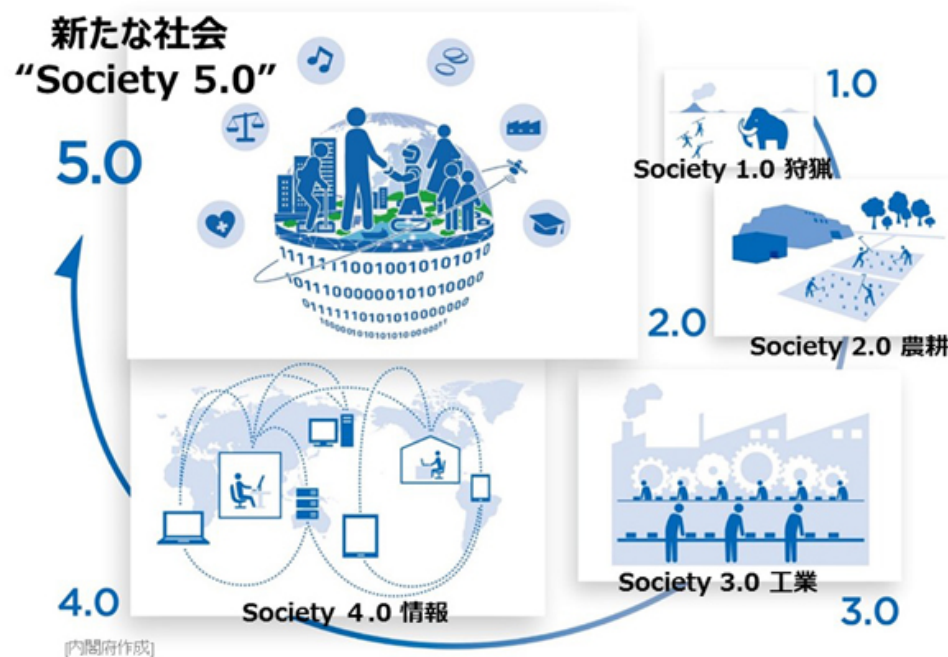
Society5.0時代って？

• この語句は、最近よく目にします。

1. 狩猟社会
2. 農耕社会
3. 工業社会
4. 情報社会
5. 超スマート社会

• Keywordとして

- 人工知能(AI)、ビッグデータ、Internet of Things(IoT)、ロボティクス等の先端技術



内閣府 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

Society 5.0で実現する社会



予測困難な時代の 特別支援教育は

- 障害のある者とない者が共に学ぶインクルーシブ教育システムの構築を目指す
- 個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備すること

中央教育審議会特別支援教育の在り方に関する特別委員会(2012)

これからの時代の教員に求められる資質能力として

- これまで教員として不易とされてきた資質能力に加え、自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力や、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結びつけ構造化する力。
- アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善、道徳教育の充実、小学校における外国語教育の早期化・教科化、ICTの活用、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒等への対応などの新たな課題に対応できる力量。
- 「チーム学校」の考えの下、多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力。

中央教育審議会(2015)

直面する7つの課題

1. 学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大
2. 子供たちの多様化(特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加, 貧困, いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等)
3. 生徒の学習意欲の低下
4. 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下, 教師不足の深刻化
5. 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど, 加速度的に進展する情報化への対応の遅れ
6. 少子高齢化, 人口減少による学校教育の維持とその質の保証に向けた取組の必要性
7. 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立, 今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導体制等の整備

教員の段階別育成指標の頻出20語

- **養成段階**の頻出語は、“理解”“指導”“児童生徒”“支援”
- **初任段階**では、養成段階で見られた語句に加え、“応じる”“必要”“適切”“授業”
- **中堅段階**では、“関係”“連携”“機関”
- **ベテラン段階**では、“助言”“学校”“組織”

養成段階		初任段階		中堅段階		ベテラン段階	
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
理解	51	指導	56	指導	72	指導	59
指導	39	児童生徒	40	支援	40	支援	37
児童生徒	35	支援	38	関係	30	助言	31
支援	28	行う	25	児童生徒	29	学校	29
知識	23	理解	25	連携	29	組織	28
基礎	21	応じる	24	行う	27	連携	27
必要	21	教育	18	機関	25	関係	26
特別	17	必要	18	応じる	24	機関	25
特別支援教育	15	適切	16	理解	22	児童生徒	25
教育	13	授業	15	授業	20	推進	25
方法	12	把握	13	適切	20	行う	23
意義	11	基づく	12	助言	17	教育	20
身	10	計画	12	学校	16	体制	20
配慮	9	作成	12	特別支援教育	16	教職員	18
付ける	9	対応	12	教育	13	校内	17
子供	8	ニーズ	11	教職員	13	特別支援教育	17
発達	8	実態	11	個別の指導計画	13	全体	13
基本	7	特性	11	改善	12	向ける	12
作成	7	特別	11	特性	12	授業	12
授業	7	個別の指導計画	10	教員	11	他	12

文部科学省(2020)【参考資料9-1】各都道府県の教員育成指標の状況. 新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議(第10回)会議資料.

インクルーシブ教育時代の教育現場において、 主体的・対話的に深く学び続けることのできる教 員養成の実践

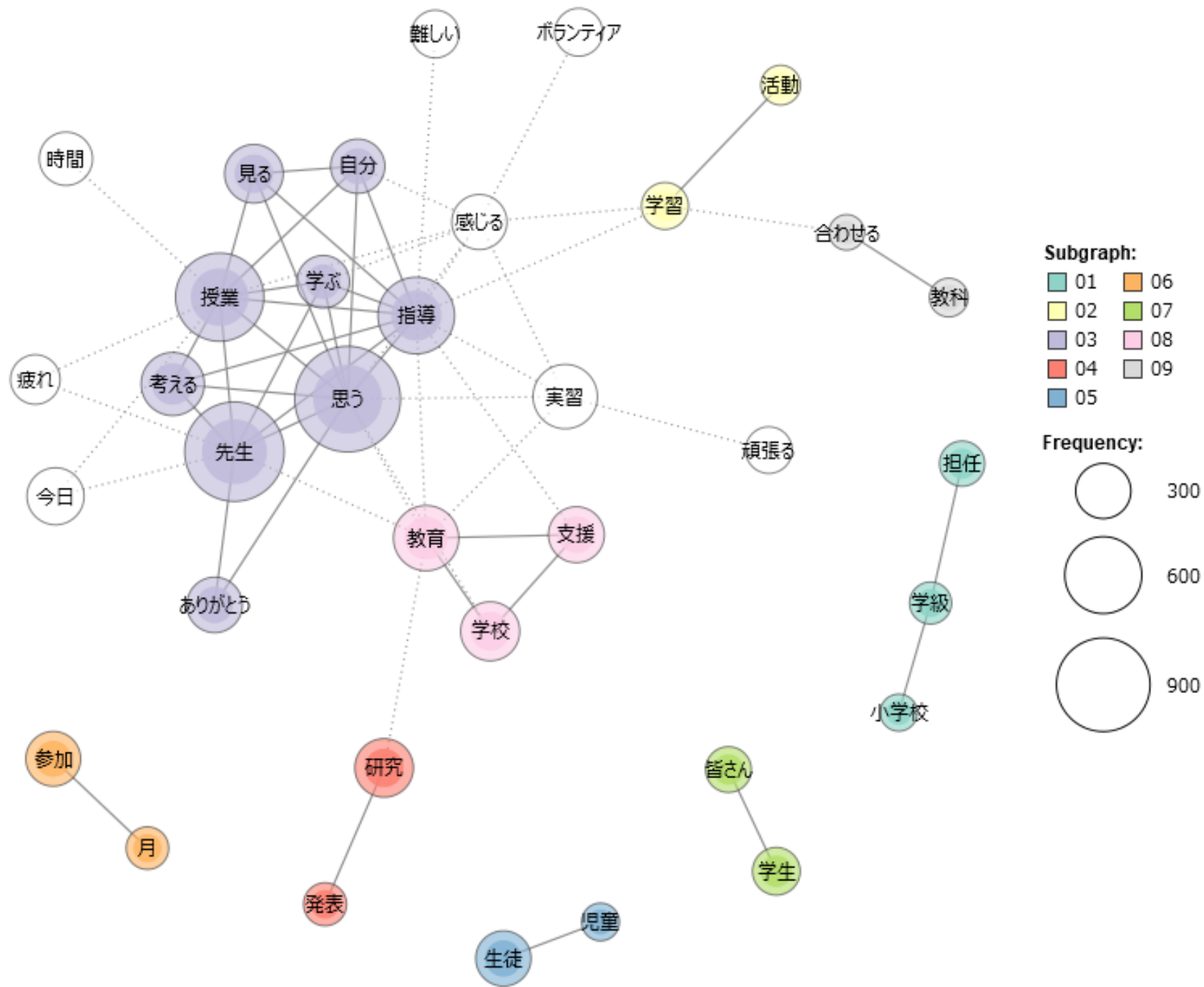
- 今後の教員養成段階では、知識・技能の習得だけで終わるのではなく、予測不可能な社会の中で新たに直面する課題に対応可能な学びや同僚等との協働、保護者や地域との連携が多忙な職務の中で日常的に継続できるコンピテンシーラーニングが必要
- 特別支援学校教諭免許状取得希望の遠隔地間の学生や現職教員等のみが参加可能なCNS(Closed Networking Service)上の相互作用が、専門性向上に寄与している要因を探るために、一切の個人情報等を除く発話ログを計量テキスト分析の手法により分析した。

結果

- 2019年5月より2020年3月末(2019年度)に投稿された発話データを対象
- 計量テキスト分析ソフトKHCoderにより分析を行った。
- 対象となるテキストファイルを分析した結果
総抽出語数は219,540語(使用は76,951語)
- KHCoderにより多変量解析を行い、30回以上データに出現していた頻出語から共起ネットワークを作成

学生と教員の 発話を分析した共起 ネットワーク

Subgraph3の発話
が他と比べ約10
倍の発話数



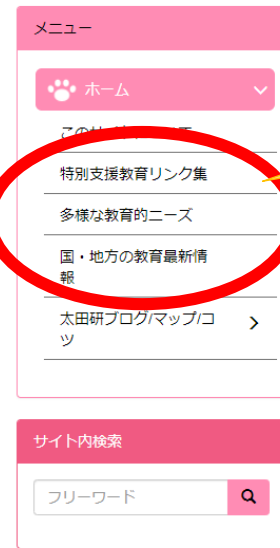
Society5.0時代の学び

- 従来からの書籍や講義、Web等からの知識・技能の習得だけで対応できない
- 友人とのメールやSNSだけではないICT活用による職務上必要な情報共有や協働に対応できること
- 対面と遠隔の組み合わせ、支援技術の活用など新たな教育の形態・方法等に対応するための学び
- 養成段階から初任段階、中堅段階、ベテラン段階とキャリアを重ねる中で、常に主体的・対話的に深く学び続けることが期待
- 特に養成段階ではこの現状認識を教育現場や教員等との相互作用を通して行い、自ら学び始めることが必要

ヒントとなる情報

- **京都ノートルダム女子大学特別支援教育研究室Webサイト**
- **科学研究費 基盤研究(C)**
AIを活用した日本語指導等が必要な子供の困難さ理解の
為の教員支援システム開発
(2020～2022年度)

特別支援教育研究室 Kyoto Notre Dame University



特別支援教育を学ぶ学生さんから
コーディネータさんに役立つ充実のリンク集
30カテゴリ340サイト

京都ノートルダム女子大学 特別支援教育研究室へ！



このサイトは、太田容次が研究と教育のために設置しています。
研究については、[このサイトについて](#)をご覧ください。

リンク集だけでは必要な情報が得るのが難しい。
そこで、AIを使って必要な情報を得られないか！